

古文書を読む会学習記録

作成日 平成27年 1月23日

開催日	平成27年 1月22日	時 間	10:00～12:00
場 所	金沢区民活動センター	出席人数	15名
講 師	真田雅行氏	作成者	鈴木浩士
テーマ	第二学習 ジョン万次郎帰朝記事①		
概要	<p>「土佐国漂流人 帰朝記事」（副題；難船帰朝記事）によりジョン万次郎が辿った道の一端を学ぶ。今回はその1回目で、土佐国宇佐浦を出て鳥島に漂着するまでの経緯を知ることができた。（出帆後鳥島上陸まで約9日間）</p> <ul style="list-style-type: none">・天保12年（1841年）正月5日、宇佐浦から小舟で漁に出る。乗組みは、万次郎（15才）の他、伝蔵（39才）、重助（25才）、五右衛門（16才）、寅右衛門（26才）の5人。（5人乗り鰹釣り舟、一本帆柱）・6日。南沖に乗出し槿（はえ）縄で小魚少々釣上げ白浜近くで夜を明す。・7日。早朝地嵐で沖に出て類船20艘程の所へ行こうとしたが、伝蔵船の漕ぎ手が弱いため足摺山の6、7里沖で漁をした。昼頃岬風（ヤマセ）が吹き出したため縄を上げて地方（陸）へ寄せようとしている時、北西風が吹き出し海上は大荒れとなった。槿縄を半分切り捨てたりして地方に漕ぎ寄せようとしたが風は益々強くなり操船できなくなった。・8日。地方を見ると室津の沖と思え、人家も見えるが艫は折れ、流れたりしているので地方に寄れない。風潮に任せて漂っているうち大波で水船になってしまった。・9日。益々大時化で水も潮になってしまったので、雨水で粥を焚いた。・10日。少し残った米で粥を煮た。敷板を砕いて薪にした。・11日。米払底、水も無く飢渴におよぶ。・12日。鷗がたくさん見える。島が近いと一同で嘶をした。・13日。島が見えた。しかし、風波荒く磯辺につけられないので島を巡って見たところ、一ヶ所船着きを見付けここに碇を下ろす。・14日。島へ上陸。岩の上に溜り水を見付け、久しぶりに口を潤す。島には人家は無かったが、大鳥（あほうどり）が多くいて、3羽捕獲し食した。・15日。打上げられた船から物を取って来て岩穴に寝所を拵えた。（怪我人及び病人計2名） <p>島廻り36丁、山の高さ50間程。かの大鳥は3月頃子をかえし、同末頃より巣を立ち、親鳥とともに飛び去ってしまい見えなくなる。</p>		
次回	平成27年 2月12日 10:00～12:00	於:金沢公会堂3号室 第一学習 永嶋家文書②	